



## アンケート結果

〒244-0002横浜市塚区矢部町125

電話 045-410-7307 FAX 045-410-7308

E-mail: mail@zenryouji.jp http://www.zenryouji.jp

発行責任 善了寺 還る家とともに 担当：三根

デイサービス還る家ともに では、介護の質の向上を目的として年に一度ご利用の方々を対象としてアンケートを実施させて頂いております。今回のニュースでは、そのアンケート結果(一部抜粋)を公表させて頂きます。

### ○食事について

味付け・量

- ・多い 0
- ・丁度良い 18
- ・少ない 0
- ・未回答 2

### ○食事に関する疑問・困りごと

- ・舌のしびれがひどい時には口に物を入れるのがつらい・麺類を食べたがるがほぼ口に入らずこぼしてしまう。
- ・総入れ歯の繊維の強いものはかみ切れず残すことが多いです。
- ・水分をあまりとらない。
- ・食べるのが遅くなった。
- ・しょっぱい、酸っぱいの感じ方がめっちゃくちゃ。
- ・たくさん食べる。

### ○入浴について

- ・自宅での洗い方が上手になったようです。
- ・適温でいつも気持ちよく入らせてもらっています。
- ・気持ちよく入っています。
- ・お風呂好きで出たがらずスママセン。
- ・家の風呂に入っているような入浴はありがたい。湯船に入っているのが好きです。
- ・快適だと思っています。
- ・善了寺での入浴に私(娘様)が安心してます。

### ○送迎について

- ・順番を調整して頂き助かります。
- ・家族会に伺えない中、送迎の際にお話しできることはとても貴重なものとなっています。

### ○現在お困りのことや、その他のご意見・ご質問・ご感想など

- ・帰った時はいつも満足そうです。
  - ・年相応に色々な事を忘れてしまいます。周りに迷惑をかけたくないと頑張っていますが出来ることが少しづつ減ってきています。「善了寺さんはとても楽しい」と明るく話してくれます。
  - ・スタッフさん全員が母のことを気にかけてこえをかけてくれ安心してお願いしています。善了寺さんの居心地の良さ、癒される空気は母も感じているようです。
  - ・排泄の失敗も少なくなり落ち着いて過ごせているようです。本人も楽しいと言っています。
  - ・お菓子の食べすぎに注意しています
  - ・善了寺さんがあるから頑張れます
  - ・還る家の方々の優しさに最初から甘えっぱなしで私も安心しています
  - ・布パンツから紙パンツへの切り替えをどうしたものか、と思っています。
- ※ご意見のうち、謝辞のみのコメントは省略しました。



ご利用の皆様・ご家族の皆様へ

アンケートにご協力いただきありがとうございました。みんな平等に年を重ねるわけではありませんが、その中での困りごとは、それぞれで大きく異なってくるとあらためて感じました。その一つ一つに丁寧に向き合いながら、皆様と過ごせる「いま」という時間を大切に、ともに在りたいと思っています。今後ともよろしく願いいたします。

## 向日葵が満開でした～

境内の一角に、春に植えたヒマワリ。あれよあれよと背丈が高くなり3mくらいの背丈になるヒマワリも！

今年の酷暑の中では中々デイの時間帯に外に出てヒマワリを眺めることが難しかったのでヒマワリで生け花やブーケなどをつくり、みんなで記念写真を撮りました。

ひまわりの黄色は力強く元気をもらえるように感じました～



### 発熱時のお願い

ご利用の方及び同居のご家族で37.5℃以上の発熱があった際は、まず受診して頂き医療機関にご相談ください。そこで検査となり、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ陽性だった場合は、ご利用者に1週間デイサービスのお休みをお願いをしています。(同居のご家族が陽性の場合でも同様)

感染対策として、ご理解・ご協力いただけると幸いです。宜しくお願ひいたします。



### ボランティアさん募集

デイサービス還る家とものでは、現在ボランティアさんを募集しています。

活動内容は、

- ・ご利用の方とのお話相手
- ・お散歩付き添い
- ・食事作り
- ・レクリエーション
- ・園芸作業

などです。

ご希望の方は、お気軽にミネまでお問い合わせください。宜しくお願ひいたします。

### 編集後記

\*「足るを知るといふことの本当の意味を体験しています」\*

と語ったのは、能登半島地震でご自身の自宅兼店舗が全壊したRさん。家族でいた時の突然の地震。目の前から奥様と2人の子どもさんが下に落下。もうダメだ!!と思ったそうですが、壊れた階段を下りて行ったら、つぶれた家の下から3人が出てきたそうです。Rさんは家の梁が背中に落ちて骨折、裸足で病院に行ったけど、もっと重症な人がたくさんいたから治療をあきらめます。あまりに痛くて寒くて道端におちているカーテンを体に巻いて真っ暗で壊れている町の中を帰ったそうです。お店は去年、リニューアルしたばかり。リースの絨毯、机に椅子、業務用冷蔵庫、エアコンもすべて全壊の家の下ですが、リースの場合は品物がなくなっても返金し続けるのだそうです。輪島の朝市に店を構えていた叔父さんご夫婦は、お店とともに火事に巻き込まれ往生されたそうで、津波警報が鳴り響き助けに行けなかった事を、『辛いという表現以上の辛さ』だと言われました。そんなRさんと輪島中学校の炊き出しをご一緒した時、家族と一緒にいられる事、人の温かな交流、本当の意味の足るを知るといふ事、地震があったからこそ学べた事は沢山ありますといわれました。Rさんも、報恩講のお弁当作りにきてくれます。ぜひ、お話ししてみてください。